

横浜市交通政策推進協議会
第7回モビリティマネジメント推進部会 会議要旨

1 日時

平成27年4月24日（金）18:00～20:00

2 場所

横浜市役所 本庁舎6階 A会議室

3 議事内容

- (1) 第13回横浜市交通政策推進協議会の開催報告 資料1
- (2) 今年度の活動について（新規の取組み） 資料2
- (3) 今年度の活動について（既存の取組み） 資料2
- (4) その他

4 議事要旨

(1) 第13回横浜市交通政策推進協議会の開催報告

- ・ 小田部部会長から、資料1を用いて、第13回横浜市交通政策推進協議会の開催報告があった。

(2) 今年度の活動について（新規の取組み）

- ・ 各委員から、資料2を用いて、新規の取組案について、説明があった。
（以下の①～⑧は、資料2【新規の取組】に記載の項目に基づく）
- ・ 各項目に対する主な意見は以下の通り。

① ゾーン運賃制に向けてのスタディ

（主な意見）

- ・ 都市部はゾーン運賃制であるべきだと考えており、最終的には実現したいと思っている。それがモビリティマネジメント推進に繋がる。今年とか来年に導入という話ではなく、まずは乗継割引制度の導入からスタートして、徐々に拡大していければよいと思っている。

（まとめ）

- ・ 中長期的な課題として位置付ける。

② 東急バス一日乗車券利用による移動実験

- ・ 特に議論なし

③ モビリティマネジメント教育として「横浜カーフリーデーもしくは横浜モビリティウィーク」を実施

④ モビリティウィークでのシンポジウム開催

(主な意見)

- ・ カーフリーデーには多くの人が集まるため、MMをアピールするには良い場だろう。カーフリーデーと連携して、何かできないだろうか。
- ・ モビリティウィークが行政も加わった形で実施されるのが、いい形ではないか。
- ・ モビリティウィークがカーフリーデーのイベントのみで終わってしまっていることが問題だ。
- ・ 部会としては、モビリティウィークにシンポジウムや勉強会を開催することをまず第一歩としてやってみてはどうか。
- ・ カーフリーデーについては、横浜市としては温暖化対策本部が後援を行っている。
- ・ 部会で議論して進められるようであれば、カーフリーデーのイベントで部会のブースを出展したり、イベント以外に別途部会がシンポジウム等を開催するのは良いと思う。
- ・ カーフリーデーに部会としてブースの出展を行ったとしても、来場者にどういう団体がブースを運営しているのかが伝わりづらく、効果があるか疑問である。
- ・ それよりは、よりターゲットを絞ってシンポジウムの開催の方がよいと思うが、開催方法等については細かな検討が必要である。
- ・ 今からシンポジウムの内容を練って、今年度実施するのは難しいのではないか。
- ・ 来年度にはシンポジウム等を開催したい。

(まとめ)

- ・ 来年度のシンポジウム実施を目指し、中期的な取組みと位置付ける。

⑤ 廃止の危険性のある路線でのTFP実施

(主な意見)

- ・ TFPとは、トラベルフィードバックプログラムの略。モビリティマネジメント推進部会と名乗っている以上、モビリティマネジメントの主な手法であるTFPに取り組むべきではないか。
- ・ 例えば、ある地域でバスの利用者にアンケートを実施して結果をフィードバックし、コミュニケーションを通して、その地域のバス路線の今後のあり方を考える。
- ・ 今年は実施方法について議論して、来年以降に実施できればと思う。
- ・ TFPという手法があるということを知ってもらう取組みができれば

ば良い。

- ・ 横浜市内でも、TFPという手法に拘らず、同じようなことは実施している。過去に、利用者の少ない路線で乗客向けにアンケートを行った例もあるが、その結果をバスの利用促進に繋がるように活用するのは難しかった。
- ・ バス路線が廃止されると実際に困る地域に、TFPという手法があることを知ってもらうことは有意義だと思う。
- ・ 実際に困った人が真剣に考える時にTFPの教科書代わりに使えるコンテンツを部会として用意して、部会のポータルサイトで公開しても良いのではないか。
- ・ 実施手法等を動画形式で分かりやすくまとめたものを作れば良いと思う。
- ・ 誰がどんな活動をしているのか、なかなか情報が行き届かないのが現状。考え、悩んでいる人に届くようにしたい。

(まとめ)

- ・ 中長期的な取り組みと位置付ける。

⑥ ar 技術を導入し、バス路線やバス停付近での便利情報や地域情報を提供する

⑦ バス利用が楽しくなるアプリのためのアイデアソンを提案

⑧ バス内での情報提供システムを楽しいものにする

(主な意見)

- ・ 若い世代の関心を集めることを主な目的に、ar 技術を利用してバスの乗車中や降車後に、楽しい情報やお得な情報を提供できるといい。
- ・ スタンプラリーを行う際にも、ar 技術を利用して地域の歴史的情報を提供したらどうか。
- ・ とても面白そうだが、部会でどのようにやるかのイメージがつかない。
- ・ 全ての部会委員が ar 技術について理解できているわけではないので、詳しい委員にコーディネートしてもらい、まずは体験してもよいのでは。

(まとめ)

- ・ スタンプラリー等のイベントを実施する際に、可能であれば ar 技術を取り入れる。

(3) 今年度の活動について (既存の取組み)

- ・ **資料 2**【既存の取組】のうち、前回の部会にて具体的に検討を進めることになった取組案について、各委員から説明があった。

① 公共交通利用促進のためのポータルサイトの活用・作成

(主な意見)

- ・ バス事業者が提供しているものや無料の乗換案内アプリは既に数多くある。ゼロか

らポータルサイトを作成することは難しいので、既存のものを活用しつつ、これらをわかりやすくまとめて紹介するようなポータルサイトを立ち上げられないだろうか。

- ・ 当初のポータルは簡単なものを横浜交通まちづくり協議会が作成、編集、維持する。今後各委員が一つずつコンテンツ作成を担当していく。
- ・ サイトの形ができたところで「神奈川バス案内WEB」を運営している県バス協会等にも声をかけて、今後の連携を検討してはどうか。
- ・ 横浜版のバス案内のポータルサイトを作成する方が、横浜市民には分かりやすいのではないか。

(まとめ)

- ・ 今後、具体的なコンテンツ内容等を議論していく。

② バスに関する案内表示の工夫など利用環境の充実に向けた取組み

(主な意見)

- ・ バスの利用促進のため、鉄道駅やバスターミナルの案内表示を充実させたい。できれば、バス部会や個別のバス事業者と連携したワーキングを行い、どのように案内表示の充実に図っていくのか考えたい。

(まとめ)

- ・ まずは横浜市がバス交通部会の取組みを通してバス事業者と意見交換を行う。意見交換の内容を踏まえて、今後の進め方を検討する。

③ 乗継割引運賃制度の新規導入の働きかけ

(主な意見)

- ・ 昨年、乗継割引制度の導入について横浜市交通局と意見交換会を行った。この件については、今後も引き続き交通局と意見交換を行いたい。

(まとめ)

- ・ まずは横浜市がバス交通部会の取組みを通してバス事業者と意見交換を行う。意見交換の内容を踏まえて、今後の進め方を検討する。

④ 共通ピクトサイン計画

(主な意見)

- ・ そもそもバスの乗り方が分からないから乗らないという方が相当数いるのでは。直感的に分かりやすいと思うので、バス停やバス車内の案内にピクトグラムを使うこと提案する。
- ・ 初めて来る人向けの、バスの乗り方（前乗り、後ろ乗り等）や運賃支払い方法の情

報が不足している。そういう意味では視覚的にわかりやすいピクトサインは重要なのではないか。

- ・ 横浜市から各バス事業者に対し、停留所等の表示の見直しについて考えを確認し、その状況を踏まえて今後の進め方等は検討していきたい。
- ・ いきなり全バス事業者共通でピクトサインを導入するというのは難しいと思うので、例えば、まずは部会のポータルサイトにて公開して使いたいバス事業者が自由に使えるようにすればよいのではないか。
- ・ また、このピクトグラムを使った表示というものが、本当に一番分かりやすい表示なのかについては議論が必要だと思う。
- ・ 乗りやすく案内するのはもちろん大事だが、モビリティマネジメント推進を目的とした本部会の取組みとしてどこまでやるのかについては、検討が必要。
- ・ バス事業者へのヒアリングを踏まえて、進め方を考えてはどうか。

(まとめ)

- ・ 横浜市がバス交通部会の取組みを通してバス事業者と意見交換を行う。意見交換の内容を踏まえて、今後の進め方を検討する。

⑤ 「横浜バス散歩」スタンプラリーに関する検討事項

(主な意見)

- ・ ar 技術を活用することで、バスを降りなくても見どころを回ることができる。また、ショッピング施設と提携し、クーポンなどの特典が付けられるとなお良い。
- ・ スタンプラリーのルート案に、地家ふるさと村を追加することを提案する。
- ・ 今、バスを利用していない層向けではなく、日ごろからバスを利用する層に通勤通学以外でのバスの楽しみ方をまずは伝えたい。具体的には、バスの定期券販売所などにポスターを掲出するなどしてもよいのでは。
- ・ このスタンプラリーがそのような層に十分に浸透してから、バスを日ごろ使わない層にも拡充していく方が効果的だと思う。

(まとめ)

- ・ スタンプラリーについては、各委員がルートの下見を行った上で、具体的な実施方法を議論し、ルート等を決定する。

(今年度の活動について まとめ)

- ・ 今年度は、以下の2つについて部会として取り組む。
 - 「横浜バス散歩」スタンプラリー（可能な限りで ar 技術を活用）
 - ポータルサイトの作成

(4) その他

- ・ 横浜市から、モビリティマネジメントポスター展開催の記者発表について、案内を行った。

5 委員

- ・ 暮らしフォーラムにし
- ・ 横浜交通まちづくり協議会
- ・ 特定非営利活動法人横浜にL R Tを走らせる会
- ・ 横浜の公共交通活性化をめざす会
- ・ 浅井光洋（欠席）
- ・ 小池由美
- ・ 塚田俊洋
- ・ 浪瀬佳子（欠席）
- ・ 横浜市都市整備局都市交通課（事務局）